

トクサ科トクサ属

スギナ (杉菜)

Equisetum arvense L.

自生環境

土手、畑地、あぜ など

原産地

日本在来

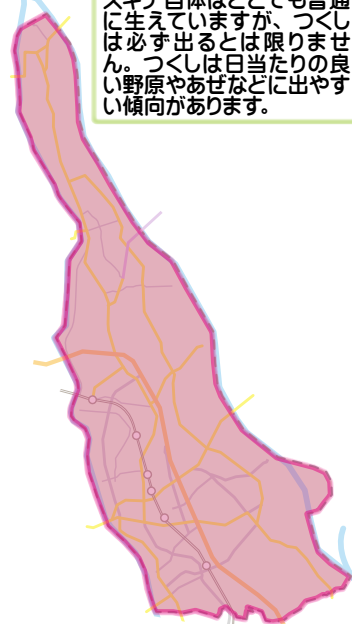
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域の野草として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

スギナ自体はどこでも普通に生えていますが、つくしは必ず出るとは限りません。つくしは日当たりの良い野原やあぜなどに生やす傾向があります。

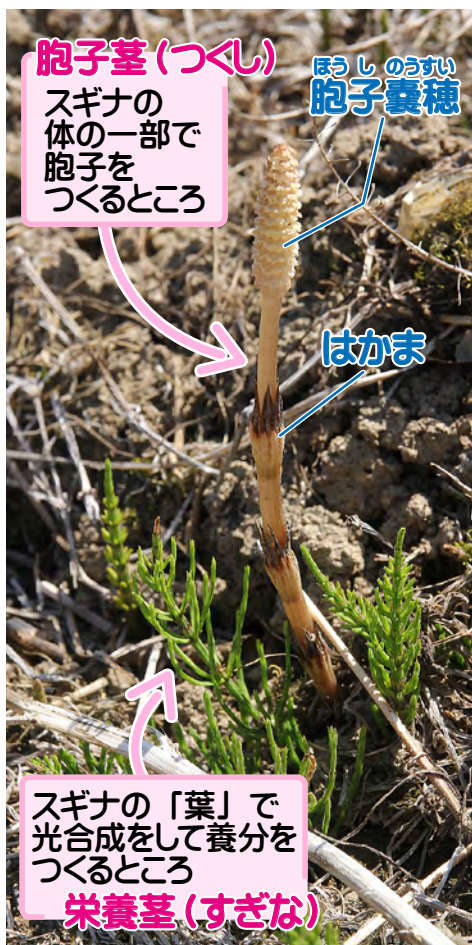


特徴

- ☆ 日当たりの良い場所でごく普通に見られる多年草です。地上部は高さ 30cm 前後ですが、土の中では地下茎や根を深く長く張り巡らせます。一見たくさんの株があるようでも、じつは地中で全部つながっていることも多く、どこまでが 1 株なのかを調べるのは容易ではありません。
- ☆ シダ植物なので胞子で繁殖します。春先に出てくる「つくし」は、スギナの胞子を出すための茎（胞子茎）で、頭の部分（胞子嚢穂）から青緑色の粉のような胞子が大量に放出されます。
- ☆ 「つくし」の後に出てくる緑色の部分が、一般に「すぎな」と呼ばれていますが、これはスギナが栄養茎です。「つくし」は胞子を放出するとすぐに枯れますが、「すぎな」は霜が降りるまで出続けます。

ミモチスギナ

スギナは、胞子をつくる茎（胞子茎、つくし）と、養分をつくる茎（栄養茎、すぎな）を別々に出します。そのため、ふつうは栄養茎の先に胞子嚢穂をつけることはありません。ただミモチスギナと言って、まれに栄養茎の先に胞子嚢穂がつくことがあります。ミモチスギナは秋～初冬に出やすく、「つくし」と「すぎな」どっちを出そうか迷った結果、中途半端になったのではないかと考えられます。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

